

■有限責任中間法人シーニッックハイウェイ支援センターの指定及び活動
・審査委員会意見に対するシーニッックハイウェイ支援センターの取り組み

ルート名称:全体		報告年月:2006/3/31	
ルートの名称	審査委員会意見	有限責任中間法人 シーニッックハイウェイ支援センターの報告	備考
シーニッックハイウェイルート全体に対する意見	景観への取り組み:景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニケーションの創出	シーニッックハイウェイ北海道を推進するにあたり、通年にわたり環境に配慮したエコツーリング運動への参加を広く呼びかけるとともに、シーニッックハイウェイ北海道の理念および活動を周知した。その一環として、道産間伐材を利用した「エコプレート」(¥1,000)を販売し、収益を沿道景観の保全活用事業に活用するビジネス的事業を試みた。また、シーニッックハイウェイルートにイメージした環境音楽とルート紹介のナレーションを収録した音楽CD(¥1,000)を販売し、地域資源を活かした商品開発の可能性を模索した。	
	持続性の確保:参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用	外部評価およびアドバイザー採用については、来年度、外部アドバイザーによる各ルートへの助言・アドバイスなどの指導を行うことを検討している。	
シーニッックハイウェイルート全体に対する意見	地域特性の活用:北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保	地域特性を活かした物語性の充実、国際競争力の強化を図るための取り組みについては、現在検討中である。今年度は、米国視察における先進ルートの地域特性を活かした物語性や取り組みを学ぶ研修会の開催、ホームページの英語対応化を図った。	
	ホスピタリティ向上:研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成	研修プログラムとして、米国シーニッックハイウェイプログラムにおける全米会議および研修プログラムを開催した。また、各ルートにて地域資源を活かした観光振興とまちづくりに関する勉強会・意見交換、景観に関する勉強会を開催した。	
シーニッックハイウェイルート全体に対する意見	全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携	情報発信として、ホームページの運営、集中活動月間情報誌の発行、全国まちづくり大会・花大陸北海道・北海道フォトコンベンションなど各コンベンションにてシーニッックハイウェイ北海道の理念および活動について情報発信を行った。ホームページについては、季節折々の景色や地域資源を楽しむシーニッックハイウェイドライブを特集記事として紹介した。また、シーニッックハイウェイ北海道の概要について英語対応化を図り、レンタカーを借り利用したプライベートツーリングの魅力を発信した。	
	開かれた運営体制:継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働	旅行会社など民間企業との連携については、米国シーニッックハイウェイ視察におけるツアー企画、レンタカー・旅行会社のHPIに対する情報提供、民間企業と連携した情報誌の発行(シーニッックハイウェイ宣言)などを行った。	
シーニッックハイウェイルート全体に対する意見	既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施	地域住民やコミュニティとの連携・協働については、シーニッックハイウェイルートが実施するフォーラム・シンポジウムへの後援・協力、活動実施に対する技術的アドバイスなどを行った。	
		地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けて、各種旅行業およびシーニッックハイウェイルート代表者会議等との意見交換などを行った。	



有限責任中間法人

シーニックバイウェイ支援センター

Scenic Byways Resource Center, Japan

所在地 札幌市中央区南1条東2丁目11番地 南1条タカハタビル
電話 011-204-7107
FAX 011-204-7108
E-mail info-sc@scenicbyway.jp
http// http://www.scenicbyway.jp/

シーニックバイウェイ支援センター 設立について

設立主旨

北海道においては、全国に先駆けて、みちをきっかけに地域住民の方々と行政とが連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善の取り組みを進めることにより、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを図る「シーニックバイウェイ北海道」に取り組んでいるところです。このシーニックバイウェイ北海道は、平成15年度から「千歳～ニセコルート」、「旭川～占冠ルート」の2ルートでモデル的取組が進められ、平成17年3月には、シーニックバイウェイ北海道推進協議会が設立され、同年5月には、第1ルート指定が行われました。指定ルートにおいては、民間活動団体が、沿道の植栽、清掃活動などの通じて、地域の魅力やイベント情報の提供など多彩な活動を実施し、行政も沿道景観診断をはじめ様々な形で地域住民と連携した取り組みを進めているところです。また、北海道内および全国でもシーニックバイウェイへの期待が大きくなっており、シーニックバイウェイの取組を全道・全国に展開していくにあたっては、民間と行政との連携が不可欠であり、これらの連携を専門的な観点から下支えする組織の発足が不可欠となってきました。

今後、シーニックバイウェイの理念の浸透や活動の活性化を図るため、また、シーニックバイウェイの活動を通して、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりに貢献するものとして、シーニックバイウェイ支援センター（略称：リソースセンター）を設立するものです。

目的

日本におけるシーニックバイウェイの持続的な推進・普及・発展を支援することを目的としています。

シーニックバイウェイ支援センター事業のご案内

運営体制

当センターの社員は、財団法人北海道開発協会、社団法人北海道開発技術センター、財団法人北海道道路管理技術センターとし、以下の運営体制の下、事業を推進しております。

- 代表理事 森地 茂（政策研究大学院大学教授）
- 理事・業務執行理事 原文宏（（社）北海道開発技術センター）
- 理事 見延 勲英（（財）北海道道路管理技術センター）
- 理事 広瀬 素洋（（財）北海道開発協会）
- 監事 太田 武司（太田武司公認会計士事務所）

事業内容

シーニックバイウェイ支援センターの事業内容は以下の通りです。

- 1 シーニックバイウェイに関わる情報共有・発信・連絡
- 2 シーニックバイウェイに関わる各種調査・研究
- 3 シーニックバイウェイに関わる広報・プロモーション
- 4 シーニックバイウェイに関わる人材育成・教育・資格認定
- 5 各種団体の連携を促進するためのコーディネート
- 6 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

(詳細)

- ・ホームページの運用
- ・メールリストの運用
- ・各種出版物の発行
- ・機関誌の発行
- ・シーニックフォト倶楽部の運営
- ・サポーターズクラブの運営
- ・勉強会の開催
- ・ビジネスモデルの開発
- ・ロゴマークの管理委託
- ・CDの販売
- ・道内視察ツアーの企画
- ・米国視察ツアーの企画



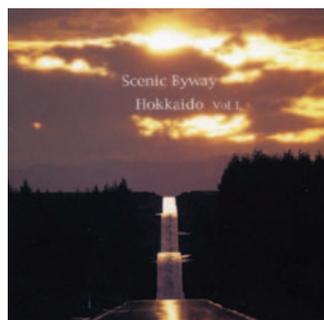
シーニックバイウェイ
北海道ホームページ

<http://www.scenicbyway.jp/>



シーニックフォト倶楽部

<http://www.decnet.or.jp/photoclub/>



CDの販売

「Scenic Byway Hokkaido vol.1」
2枚組み ￥1,000(消費税含む)
・original tracks 14曲
・Radio Kisar Sampler 5曲
～Scenic Byway Hokkaido
edition～
※ブックレットルートを写真集、
ルートマップ付き



広報物の販売

■シーニックバイウェイオフィシャルマークについて

このマークは、現在商標登録出願中です（2005.7.1現在）。
地域の人たちが主体となって取り組み「美しい景観づくり」や魅力ある観光空間づくりの熱い心は、訪れる人たちに感動の心を呼びおこします。
「心とココロ」が出会う時「活力ある地域づくり」が動きます。
「道」をハートの形にしたオフィシャルマークは、「シーニックバイウェイの心」を表しています。

